

インドの白虎

特許審査第四部長 櫻井 孝

在外勤務をしたことのある先輩から、在勤を終えて帰国するとかつての任国に愛着が湧いてその国に関するニュースとか読み物にアンテナがよく向くようになる、という話を聞いた。自分もインドとかブータンにはかなり敏感な方だと思うが、まったく意識しないで本などを読んでいてインドに出会うことがある。コナン・ドイル作のシャーロック・ホームズ・シリーズで、珍しく長編ものとして書かれた「四つの署名」はまさにそれである。もともとロンドンで発生したインドの秘宝をめぐる殺人事件をテーマにしているから、読み進めるうちにいずれインドの話が出てくるだろうと予見させるが、そのとおり、ストーリーの後半でホームズが捕らえた犯人が語る物語は、インドでのセポイの反乱に端を発した設定となっている。場所となるのはタージ・マハルで有名なアグラだ。ただし、この話にタージ・マハルは出てこない。タージ・マハルを造らせたムガル帝国第五代皇帝シャー・ジャハーンが晩年

に幽閉されていたことで有名なアグラ城が、その事件の舞台となっている。コナン・ドイルがアグラを訪れたことがあるのかどうか知らないが、犯人に語らせるアグラ城の様子は、まさに彼が現地に行つて実際に見てきたのではないかと思わせるほどによくその雰囲気をつめた描写となっている。タージ・マハルも素晴らしいが、それは女性的な美であり、他方、アグラ城は男性的な荒々しい機能美にあふれていると思う。

さて、デリーとアグラとジャイプールは、インド観光における黄金のトライアングルと呼ばれている。92年に秋篠宮同妃両殿下がインドを訪問されたおりもまさにこの3地点を巡られた。自分はジャイプールでその御宿となったランバーク・パレス・ホテルでの実質的総指揮を担当させていただいたが、緊張の連続であったことを今でも思い出す。デリーからアグラを経由してジャイプールに來られ、そこでご1泊されてデリーに戻られる、というご旅程だったと記憶する。秋篠宮殿下は鶏やナマズのご研究で知られた研究者であり、アグラからジャイプールに至る間で鳥獣保護区となった国立公園をご視察されたし、デリーではデリー動物園もご視察された。

さて、秋篠宮同妃両殿下がそのデリー動物園をご視察された際のハプニング。デリー動物園にはホワイトタイガーが飼われていた。中国に白虎の伝説があるが、ホワイトタイガーはインドにしかないんだそう。ベンガル虎のアルビノかと思ったが、そうではなく、もともと毛の色が白い虎らしい。このデリー動物園のホワイトタイガーに2頭の赤ちゃんが産まれていた。で、事前のインド政府側との打ち合わせではそんな話はまったく聞かされていなかったのだが、両殿下がホワイトタイガーの赤ちゃんをご覧になったおり、



デリー動物園の園長さんが両殿下に対し、この2頭の名付け親になって下さいと突然お願いしたのである。突然のことではあったが、両殿下はその場でそれを快くご了解された。いかにもインドらしい、筋書きのないドラマだ。ご快諾いただいたとはいえ、事務方としてはえらいこっちゃである。さて、事後のことの進め方はどうしたらいいものか……。

両殿下がデリー動物園をご視察になられたのは1992年11月13日。両殿下がご無事に帰国されたあと、12月に入った頃だっただろうか、インド政府側から、例のお願いの件はいかがになりましたでしょうか、との打診が我が大使館にあった。大使館から取り次いだところ、さっそく日本からご回答を送って下さった。両殿下は動物がたいへん好きなんだろうと思う。ちゃんとお約束を覚えていてくださったわけだ。で、同年12月21日、2頭のチビ虎ちゃんに名前が付けられた。その様子はインド各紙が大きく報じたが、例えば翌12月22日付のTimes of India紙は、真新しい名札を付けられたケージの中で元気に遊ぶ2頭のチビ虎ちゃんの写真とともに、TOI電をキャリーして次のように報じている。

「Two white tiger cubs of the National Zoological Park, New Delhi, were christened on Monday with royal names by the Japanese Prince and Princess Akishino, who visited them recently. The elder cub has been named 'Kiko' after the Princess and the

younger one is 'Mako', the name of the daughter of the Prince and the Princess. The director of the park had requested the royal couple to name the two cubs to commemorate their visit.」

そう、大きい方のチビ虎ちゃんは妃殿下の御名前にちなんで「キコ」、小さい方のチビ虎ちゃんは内親王の御名前にちなんで「マコ」と名付けられたのである。そのチビ虎ちゃん達ももう16歳ということだろうか。虎の寿命がどれくらいのものか残念ながら自分は知らないのだが、末永く健やかに過ごしてもらいたいものと願っている。

さて、虎はインドの国の動物に指定されている。だから、昔から自然保護の視点なども含め、虎がインドの記念切手のデザインに使われる例は多く見られた。しかし、ことホワイトタイガーとなると、1987年に初めて記念切手に登場している。この記念切手に寄せられた解説によると、ホワイトタイガーは自然界ではマディア・プラデシュ州東部及びビハール州南部の森林でのみ棲息しているとのこと、数が少ないため動物園などでの繁殖が試みられているとのことである¹⁾。

なお、虎がインドの通常切手のデザインに使われたことがある。1974年～1983年にかけて発行された第5次通常切手シリーズで額面15パイサの切手に登場した。この切手のデザインは、ウツル・プラデシュ州の森林監視官G.N.シン氏が撮った「Tiger」の写真をもとに作成されたそうだが、虎の縞の細さ加減や配色の妙でなんとなくホワイトタイガーのように見えるのは自分だけだろうか。

1) KNOW YOUR STAMPS, 1988 published by Dipak Chakravarty, Calcutta



「ホワイトタイガー」は1987年11月29日に発行された野生生物の記念切手2種のうちの1種(ギボンス#1276)。



「虎」は1974年10月1日発行(ギボンス#721)(左)。その後、印刷経費削減のため背景を無色にしたものが1975年7月15日に発行された(ギボンス#730)(右)。



2枚ペアは、無目打ちエラー切手。